

○単元の目標及び評価規準の設定

保健体育科【体育分野】の場合、単元の目標を、次のように設定します。

(1)の「知識及び技能」及び(2)「思考力、判断力、表現力等」、(3)「学びに向かう力、人間性等」の目標とも、基本的に指導事項の文末を「～できるようにする。」として示す。

単元の評価規準は、次のように設定します。

◆**体育分野の「知識・技能」**は、知識と技能に分けて示す。「知識」は[知識及び技能]の例示の文末を「～について言ったり書き出したたりしている。」「～について学習した具体例を挙げている。」とする。「技能」は例示の文末を「～ができる。」とする。

◆**保健分野の「知識・技能」**は、例示の表現を「～について言ったり、書き出したたりしているとともに、～ができる。」と示す。

◆**「思考・判断・表現」**は、[思考力、判断力、表現力等]の例示の文末を「～している」とする。

◆**「主体的に学習に取り組む態度」**は、愛好的態度、公正、協力、責任、参画、共生については[学びに向かう力人間性]の例示を「～しようとする。」として示す。健康・安全については「～している。」として示す。

子供たちに求められる資質・能力を確実に育むためには、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善を進めていくことが重要です。そのため、単元を通してどのような子供たちの姿を目指していくのかを明確にイメージし、単元を構想しましょう。

中学校第1学年 球技 ゴール型 サッカー 学習構想案

1 単元構想

単元名	球技 ゴール型 サッカー		
単元の目標	(1)勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができるようにする。ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができるようにする。 (2)攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (3)球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。		
単元の評価規準	知識・技能 【知識】 ①球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したたりしている。 ②球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 【技能】 ①ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。 ②得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。 ③ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。	思考・判断・表現 ①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 ②仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。 ③仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。	主体的に学習に取り組む態度 ①練習の補助をしたり仲間を助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。 ②健康・安全に留意している。
単元終了時の生徒の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）			
仲間と協力して学習する中で、サッカー（球技）に関する理解を深め、ゴール前での攻防を展開して楽しさや喜びを味わい、 ア 日常生活でも球技をはじめスポーツ イ 多様な関わり方をする生徒			
単元を通した学習課題（単元の中心的な学習課題）	本単元で働かせる見方・考え方		
ボール操作とゴール前での連携した動きを仲間と高めながらサッカーを楽しもう。	ウ サッカー（球技）の勝敗を競う楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割に着目し エ ボールを操作しながらゴール前での攻防をする オ ポイントや仲間の出来栄を見る カ 補助をしたり、仲間を助言したりして支える キ サッカーの特性や名称、ポイント等を知る、といった多様な関わり方と関連付けること。		

★「単元終了時の子供の姿」のポイント

- 目標や評価規準を踏まえ、具体的な学習や生活の場面での子供の姿となっていますか
(文末は「～している(しようとしている)子供(児童生徒)」)
- 子供たちと共有できる表現になっていますか

実生活の場面で、学習したことを生かそうとする姿を想定して、書き表した例

- ㊦ 休み時間や休日の遊びやテレビ視聴など日常生活とまとめて、実生活の場面を示しています。
- ㊧ 3つの資質・能力及び生徒の適正等を踏まえるとさまざまに考えられることから多様な関わり方としてまとめて示しています。

★「本単元で働かせる見方・考え方」のポイント

- 単元を通した学習課題を解決するための見方・考え方となっていますか
- 見方・考え方を働かせると深い学びになりますか

主体的・対話的で深い学びの実現に向け、単元の評価規準から見方・考え方を書き表した例

- ㊨ 単元の学習全体を通した見方を示します。考え方は、多様な関わり方として、
- ㊩ 主に「技能」から「する」、
- ㊪ 「思考・判断」の視点から「みる」、
- ㊫ 「主体的に学習に取り組む態度」から「支える」
- ㊬ 「知識」から「知る」内容を示します。

※各観点とも、上記を基本とするが、授業の場面に応じて、さらに具体化したものにもある。

★「単元を通した学習課題」のポイント

- 子供たちが単元を通して興味・関心をもって深く考えることができる学習課題ですか
- 見方・考え方を働かせて課題解決を図ることができるものですか
- 子供たちと共有できる表現ですか
- 単元のゴールの姿に迫るものですか
- 「知識及び技能」など一部が重視されることなく3つの資質・能力をバランスよく学習できる表現ですか